

## 第 5 回

# 台東区震災復興小学校の校舎及び 用地の有効活用に関する検討委員会

日 時 平成28年12月8日

台東区企画課

- 1 日 時 平成28年12月8日(木) 15:00～16:10
- 2 会 場 区役所4階 庁議室
- 3 出席者 委員長 越 澤 明 副委員長 吉 川 徹  
(5人) 委 員 元 倉 眞 琴 委 員 山 家 京 子  
委 員 野 本 孝 三
- 4 欠席者  
(0人)
- 5 事務局 企画財政部長 佐 藤 徳 久  
企画課長 酒 井 ま り  
企画財政部副参事 佐々木 洋 人

(午後3時00分 開会)

○事務局 皆様おそろいになりましたので開始したいと思います。

それでは、委員長、本日の進行をよろしくお願いいたします。

○委員長 それでは、これより台東区震災復興小学校の校舎及び用地の有効活用に関する検討委員会を開会いたします。まず、配付資料の確認をお願いします。

○事務局 それでは、事務局から配付資料の確認をさせていただきます。

(配布資料確認)

○委員長 委員会の傍聴についてお諮りしたいと思いますが、まずは本日の委員会の傍聴について、ご希望はございますか。

○事務局 本日、傍聴希望者は2名となっております。事務局で事前に承認確認を確認したところ、傍聴の要領に合致していましたことをご報告いたします。

○委員長 では、傍聴について、第1回検討委員会で決定したとおり、原則公開となっておりますので、傍聴を許可したいと思いますが、いかがでございましょうか。

(異議なし)

○委員長 では、傍聴を許可したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(傍聴者 入室)

○委員長 次第の2、第4回検討委員会の議事録の掲載について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局 第4回検討委員会の議事録の掲載についてご説明いたします。

(資料1説明)

○委員長 よろしければ本議事録を検討委員会終了後にホームページに掲載したいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○委員長 ありがとうございました。

つづきまして、次第の3、提言(案)について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、資料2、資料3をご覧ください。提言(案)についてご説明いたします。

(資料2、資料3説明)

○委員長 ありがとうございました。

それでは、特段修正がなかったところについても再度確認いただくとともに、修正案が

出ている部分について集中的に意見交換をしたいと思います。

では、1 ページの「はじめに」から13 ページの「3. 現存する台東区内の復興小学校について」、修正などはよろしいでしょうか。

(異議なし)

○委員長 ありがとうございました。

修正案が出ている、15 ページは後ほど確認することとし、先に参考資料について、お気づきの点はございますか。東浅草小学校などの現況写真のページに写真を掲載できそうな箇所がありますので、追加をお願いします。こちらは、提言の本文の差し替えではないので、事務局にお任せします。

○事務局 東浅草小学校であれば、階段を上った場所にオープンスペースとして使っていた図書コーナーが特徴的です。改めて撮影し、掲載いたします。そのほかの学校についても、空いている箇所は写真を追加いたします。

○委員長 その他、お気づきの点がなければ、参考資料はこれでよろしゅうございますか。

(異議なし)

○委員長 ありがとうございました。

続きまして、14、15 ページの「4. 各校の意見集約」では、旧下谷小学校と旧坂本小学校の2校について、資料3のとおり2案が示されています。こちらは、意見交換した上で、本日確定したいと思います。各委員からの忌憚のないご意見を賜りたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員 資料3の修正案の方が文章の趣旨も通りますし、これまでの委員会の内容に沿っていると思います。

○委員長 修正案に更に修正はございますか。

○委員 「行政が責任を持って主体的に」という「主体的に」という言葉ですが、まちや都市は誰がつくるのかというような議論の中で、行政、市民が協働していくと考えると、「行政が責任を持って主体的に」と重ねるのは、少しニュアンスが強いとも感じているところ。 「責任を持って」とありますので、「主体的に」は外してもよいと感じました。

○委員長 ありがとうございました。どのようにするかは、皆様のご意見を伺ってから決定したいと思います。

委員はいかがですか。

○委員 修正案で異論はありません。いろいろな方面の意見がよく集約されていると思います。

○委員長 ありがとうございます。

先生、いかがですか。

○委員 私も修正案の方でよろしいと思います。

○委員長 ありがとうございます。

委員、いかがですか。

○委員 修正案の方でよろしいと思います。

○委員長 わかりました。

基本は修正案でよろしいということで意見を伺いましたが、先ほどの委員からご質問がありました。事務局としてはいかがでしょうか。

○事務局 「行政が責任を持って主体的に」というのは、もともと区民の意見を酌んで責任を持って検討していくという認識でおりましたので、「主体的」という言葉の有無については、特に意見はありません。

○委員長 言葉の受け取り方は、それぞれで少しずつ違うと思います。

公共施設として長年あったものを、利用方法を変える可能性があるものについて、どのような活用したらよいかを議論する中で、区がしっかりと責任を持って検討しなさいということを行っているので、「主体的」という言葉はあったほうが、区はより責任を持って判断してくれることになるのではないかと思います。

当然、そのために地域住民の意見を聞くことや、大きな改変を伴う場合には、様々な分野の専門家の意見を聞くなど、いろいろと区の取り組み方はあると思います。

○事務局 議会からも区が主体的に何らかの方向性を出していくべきなのではないかという意見をいただいているところです。

○委員長 委員、いかがでしょうか。

○委員 例えば、都市計画のマスタープランに、必ず市民も参加するということから、都市計画においても、行政と市民が協働する形で計画をするという形があるので、責任の有無ではなくて、「主体」という言葉が少し気になりますが、他の委員が気にならないのであれば、強く主張するものではありません。

○委員長 わかりました。

それでは、前回も議論した結果で、最終的にこのような形に集約するというところでよろ

しいでしょうか。

本検討委員会も経過が全て公開されていますし、区のホームページにも掲載されています。数か月でホームページから消えてしまうことはありませんか。

○事務局 期限を区切らず、継続して掲載いたします。

○委員長 委員の意見もきちんと議事録に載りますので、ご理解いただきたいと思います。

では、提言（案）の１５ページは、資料３の右の修正案に差し替えるということで、各委員にご了解いただきました。それに伴い、提言（案）の１６ページ「５．提言のまとめ」については、これは修正が出てきますか。

○事務局 １６ページにつきましては、事前にいただいたご意見はございませんでした。

○委員長 本日が最後となりますので、１６ページについて、ご意見があれば、ご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

（異議なし）

○委員長 どうもありがとうございました。

では、参考資料に写真を追加するというので、これは提言の本文ではありませんので、事務局に任せます。

本提言でございますが、資料３の修正案に差し替えた上で、本委員会として決定いたします。

提言がまとまりましたので、本検討委員会の全体を踏まえ、各委員から自由にご発言いただきたいと思います。

委員、いかがでしょうか。

○委員 復興小学校の歴史的な意義を踏まえた上で、どのように有効活用していくのかという検討委員会に、私は歴史的なものとかデザイン面について専門ではない中、台東区政や東京都の都市計画にも関わったことがあることから、参加させていただきました。

私の視点ですと、こういった小学校、特に廃校になった小学校は貴重な財産であるので、区の発展のために何とか使っていきたいという思いがあります。もちろん、各委員がおっしゃるように、歴史的価値や貴重なデザインなどは保持しながらも、何とか有効活用できるようにしていきたいと思いました。

○委員長 ありがとうございました。

委員、いかがでしょうか。

○委員 本委員会に参加させてもらうことをきっかけに、改めて復興小学校のことを調べ、

考えました。気がついたことは、例えば、皆が知っている古く有名な建築であったり、歴史上重要な人が住んでいた家であった場合は歴史的な遺産として認識していますが、復興小学校については、今まで私にはそういう認識はありませんでした。このような機会を与えてくれたことで、私自身、復興小学校は、重要な歴史的な遺産であると改めて思うようになりました。

もちろん、一つ一つの建築そのもののポテンシャルはそれほど高いものではないかもしれませんが、しかし、震災後の東京のまちの復興を考える中で、戦略的に小学校と公園というものを使ったことは、今の東京のまちの形に影響を与えている非常に重要なことだろうと思います。そのような認識のもとに、復興小学校と公園というのを考えなければいけないのではないかと改めて思います。台東区は復興小学校が6校も残っていますので、ぜひそういう形で位置づけてもらいたいと思います。

また、効率よく都市をつくり変えていく中で、確かに学校用地というのはまとまった非常に使いやすい土地ではありますが、歴史的価値の重さや、それが小学校であるということで、たくさんの人たちがそれに関わり、そこを経験している。そういった建物は他にはあまりないので、それを踏まえて価値の比較を、将来この小学校をどうするかという議論が改めて起きたときにも、考えてもらいたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。

委員、いかがでしょうか。

○委員 私も本検討委員会にあたり、これまでそれほど多くの知識があったわけではないので、かなり勉強させていただきました。

その中で、復興小学校が歴史の中でどのような位置づけがあったのか、地域との関わりが非常に強かったことなど、その辺りも非常に歴史的価値の高いものだと感じました。

そう考えていきますと、もともと小学校は非常に地域と密着した関係で、地域にとっての意向というのは非常に重要なのですが、私は今日も言葉の中で、あえて住民という言葉ではなく一般的な言葉としての市民というように使いましたが、復興小学校の歴史的価値や、できてからの年限を考えると、地域だけの資産ではなく、多くの人にとっての非常に価値ある継承すべきものなのではないかと感じました。

そのため、地域住民だけではなく、多くの人たちにとって重要な価値を少しでも共有して考えていけるとよいのではないかと感じています。

もう一つ、復興小学校の歴史的価値だけではなくて、現状の中で見ていくと、やはり校

庭があるので、都市の中のオープンスペースとしての価値も非常に重要であると感じており、これからの社会の中で、都市におけるオープンスペースというのはますます重要になってくるのではないかと考えたときに、現役小学校は別ですけれども、現役小学校以外の旧小島小学校、旧柳北小学校、さらには旧下谷小学校、旧坂本小学校も含め、オープンスペースのあり方として、小公園との連続性も含めて、今後、ぜひ継続して検討していただきたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。

では、委員、いかかでしょうか。

○委員 考えたことが三つございます、

まず1点目は、委員の話でもあった、区の貴重な財産なので、高度利用を図ることは当然のことなのですが、高度な利用というのは都市計画上どういったことなのかというのは難しいところがございます。不動産会社に土地を売却して、最も収益が上がる形で使ってもらうのが、一番高度利用になりますが、これは地元の方の賛同が得られない結果になることが多いです。地元の方の賛同が得られないだけでなく、区にとって一番役に立つ、区民の将来にとって一番役に立つという観点からすると、難しいかもしれません。

売却すると住宅プレッシャーの高いところは超高層住宅になるという可能性が一番高いのですが、住宅以外のことを考えると、実は高度な利用というのは非常に困難で、知恵を使わないと高度な利用ができないし、場合によっては公共の力が必要になることもあり、結構手間もかかったりします。まさに区役所や市民の知恵を結集して、高度な利用とは何かということに知恵を出し合わないといけない。それは難しい問題であり、高度利用をどうするのかということをしつかりと検討しなければならない。

2点目は、委員長もおっしゃっている、暫定活用の意義というのを、もう少し大きく考えていくべきではないか思います。

つまり、有効利用とか高度利用の対極にある一番ひどい使い方は、そのまま何も使わないということです。本来であれば、例えば貸せばお金が儲かるし、貸さずに区で使っていても、区民サービスが向上するのです。そのどちらもせずに閉じてしまうということは、ファシリティマネジメントという観点から見ると、これは絶対にしてはいけないことです。ですから、何らかの形で暫定利用を図るべきだと思います。もちろん暫定利用が難しいのは、暫定利用しているうちに恒久利用というような話になってしまうことなども想定されるため、通常は暫定利用はしない。日本の不動産の所有制度がそうになっているから仕方な



いのですが、今は定期借地権もありますし、使用賃借でただで貸してもいいわけです。横浜のBankARTのように3年間貸すということが決まっていて、その後、取り壊すというやり方もある。それでもやはり何かに使って埋めたほうがよい。

こういう話をすると、昔は、まずは取り壊してそれから考えるということがよくありました。これは今でもよく出てくる意見なのですが、これは昔と状況が実は変わってきて、今は取り壊した後、新しくつくる余力が自治体も民間もあまりなかったりします。高度な利用で収益が上がるものを思いつかないうちに、結局ずっと駐車場で使われている。これも良くない使われ方で、地元にとっても負の遺産になってしまう。

何か別の本格利用がなかなか決まらないのであれば、そこまでの暫定の間でもしっかりと使って、まちを有益なもので埋めておくという観点に立たないと、地域全体の活力が下がってしまうという危険があると思います。

3点目は、私も本検討委員会で、できれば保存のほうが良いと言っているのですが、私も同じ責任があるのですが、保存する側こそが活用する意見を出す責任を負うべきだと思います。あるだけで世界遺産になるような法隆寺のようなものとは違い、委員がおっしゃったように、建築はそれほどものではない。ただし、まちの中で非常によい役割を演じてきた、普段使いのすてきな建物というものです。

それを保存しようというのなら、保存する側がまずこんな使い方をしましょうという提案を出さないといけない時代になっていると思います。

保存する側からの提案、いろいろな人からの提案を集めて、市民と話し合っていく。それは、逆に言うと、市民も責任を持って保存した上での使い方を提案する。そのように、皆が知恵を出し合って、最後に行政が主体的に将来を見据えて決断をする。そのようなルートで、全員が逃げずに責任を負うことこそが絶対に必要なことだと思います。

保存すると言うだけではなく提案する。本検討委員会でも委員長や委員からも旧小島小学校などでは、素敵な提案を出していただいて、その提案が提言の各委員からの意見に入っていますので、そういったことも是非活かしていただきたいと思います。

○委員長 ありがとうございました。

最後に、私からも話させてもらいます。

まずは、関東大震災は下町が焼失区域であったので、復興小学校があった区というのは、23区でも数が少ないです。そういう意味では、復興小学校で教育を受けたという体験をされているというのは、都心の区ならではの事です。

私の知る限りでは、これまで区として復興小学校全体を捉えて、その中で現存のものをどうするかという議論をしようという姿勢を持った区は、多分、台東区が初めてだったのではないかと思います。

過去の近隣区でもいろいろ取り壊しなり改築するとなると、どうしてこわすのかという議論になったこともありました。それを踏まえると、台東区としては、区の政策としてきちんと考えた上で、最終的に決断をしてほしいと思います。

それから台東区の個性といいますか特性だと思いますが、江戸時代から続いている場所で、都心に非常に近接した中で存在している区となります。そのため、旧小島小学校の現在の活用方法も含め、他の区ではあまりできないことだと思います。恐らく、もともと江戸時代から続いている中で、伝統的にやられている方もいて、新たに職人などを目指す方々がいる。やはりそういう区の成り立ちと、ある意味では現代に通じている伝統産業や観光振興とは関係があるところがあります。

ぜひ台東区の持っている個性や地域特性を活かして、他区と違うことを絶えずチャレンジしてほしい。日本に来られる外国人の方の観光もだんだん多様化していますので、公共施設をある程度活かして、民間からも協力が得られるような形の展示やカフェ、マルシェ、バザールなど、そういった活用は台東区が一番成り立ちやすいところです。それが台東区ならではのことがあると思いますので、本検討委員会の取り組みに限らず、区の政策として、台東区の特性をぜひ考えてほしいと思います。

また、今回の6校について言っているわけではないのですが、残念ながら他区の利用の仕方で、疑問を持つ使い方をしているところがあります。

小学校と公園が分断されていて、本来の思想とは違う使い方になっている場所があります。また、小公園などの広場に向かって建物が建てば1階の使い方が変わってくると思います。しかし、そういった使い方が東京の復興小学校、小公園周辺にはあまりありません。そのためには、行政側も仕掛けて、公園に面する形での建物の中の使い方を考える人が出てくることが望ましいと思います。

最近の例でいいますと、隅田公園の周囲のところは、自発的に隅田公園に向かって、飲食店がドアを開けているケースが出てきています。しかし、民間だけではどうしても変わらないものがあるので、公共用地や公共空間というのは、そういう意味では、都市を徐々に変えていく大きな力となる場所なので、公共用地とか公共施設の使い方というのを、ぜひ考えて取り組んでほしいと思います。

では、各委員からのご意見を伺いましたので、最後に提言の提出といたします。

(提言書提出)

○委員長 提言を提出し、無事終わりとなりましたが、事務局よりご発言をいただきたいと思います。

○事務局 この度は貴重な提言をいただきまして、本当にありがとうございます。

7月の暑い時期の現地視察から始まり、12月までの5回にわたる検討委員会で、活発なご議論をいただき、このような提言をいただきました。

本来ですと、区長が提言をいただくところでございますが、所用のため欠席となっております。区長からは各委員に対して御礼の言葉をいただいておりますので、区長にかわりまして、御礼を申し上げます。

本検討委員会につきましては、委員長がおっしゃいましたように、他区も含め、このように復興小学校全体を捉えて、検討したというのは初めてではないかと思います。

私自身も復興小学校についての浅い知識はありましたが、本検討委員会の中で様々なことを勉強させていただきました。

区としても、特に旧下谷小学校と旧坂本小学校については、今後の活用について、現在検討しているところでございますので、この提言を踏まえまして、まずは区民の福祉向上に資するにはどうしたらよいかといった視点を持って、検討をさらに進めてまいります。本当にありがとうございました。

○事務局 7月から半年間にわたりまして、本当に長い期間ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

私自身、事務職でございますし、今までの職場も福祉や情報システムであったため、こういった建築分野に関わらせていただくのは、今回が初めての経験ということでございました。

本検討委員会の場もちろん、それ以外にも各委員をお伺いして、いろいろなお話やたくさんのご意見をお聞きすることができました。また、実際この取組み進めていく中で、京都の番組小学校の活用の取組みなども視察させていただきました。本当に勉強になることばかりでございました。

旧下谷小学校、旧坂本小学校の活用については長年の区の懸案となっております。旧坂本小学校につきましては、地域の皆様の検討会に私も参加させていただき、検討を進めているところです。その中で、地域の方からは、新たな活用についての熱い期待を、身に

染みて感じているというところでございます。

区として、今回いただきました提言も踏まえまして、これからも取組みを進め、活用の方向性を出していきたいと思っております。

委員の皆様には深く御礼を申し上げます。

○事務局 私もデザインなどを見てよいなと思う程度の浅い知識ですが、個人的に建物を見るのが好きな時期がありました。しかし、このような復興小学校、あるいは小公園の持つ意味の重さや、震災復興、都市計画におけるそれまでの位置づけというのを考えたことがありませんでしたので、そういった意味で非常に勉強させていただきました。

復興小学校は同じ学校という意味での価値は変わらないかもしれませんが、もっと深い意味を持っているのだということで、建物的な価値というものを本当に感じさせていただきました。

ただ、その一方で、行政という立場でいきますと、いろいろな方の様々なご意見がある中で、合意形成をしながら区の財産をどう使っていくのかということが、非常に重い課題としてございます。全ての人が納得できる答えというのはなかなか出てこないと思いますが、本検討委員会でさまざま教えていただいた歴史の重さや、さらにそれを使いどのように最善の答えを導いていかなければならないのかということは、しっかりと心にとめて、これからさまざまな区政を考えていく上で参考にさせていただきたいと思っております。

本当によい機会を与えていただいたと思っております。ありがとうございました。

○事務局 この度、委員の皆様には、いろいろと教えていただきながら本検討委員会を進めることができました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

私が卒業した小学校が小公園のついている復興小学校であったり、子どものころによく遊んでいた公園が三大公園であったり、私もそういう歴史のある学校で勉強していたのだと実感を持ちました。今後も、歴史的な部分を踏まえ、学校跡地の活用を検討していかなければならないと思いました。本当にありがとうございました。

○事務局 この度は提言をまとめていただき、ありがとうございました。本検討委員会の事務局を務めることができ、大変勉強になりました。本検討委員会に係る様々な資料を作成する中で、古い資料を探すところから始まり、非常に苦労した部分もありました。しかし、調べていく過程で、建物ひとつとっても、歴史があり、現在に至っていることを改めて気づかされました。そういった歴史や古い資料を引き継いでいくことは重要であると実感いたしました。本当にありがとうございました。

○委員長 それぞれの立場で、こういったまちづくりについては、お互い頑張っていきたいと思っております。

それでは、これを持ちまして、第5回台東区震災復興小学校の校舎及び用地の有効活用に関する検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

(16時10分 閉会)